

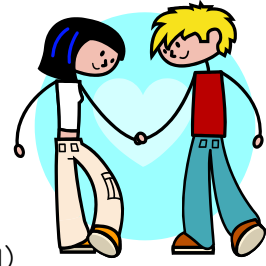
第22号

人権協だより

平成 24年2月21日

発行 内部地区人権教育推進協議会

(内部地区市民センター団体事務局内)



南部ブロック《人権ひろば》が開催される

1月29日、河原田小学校において「南部ブロック・人権ひろば」が開催されました。内部地区からも人権協 木田会長はじめ多数の方が参加いただきましたので、その概要と感想を報告します。

南部人権連主催の「人権ひろば」に参加して

内部地区人権教育推進協議会会長 木田 富喜二

去る1月29日、河原田小学校ランチルームにおいて、南部地区（河原田・楠・塩浜・日永・内部）の人権尊重啓発関係団体で組織された「南部ブロック・人権教育連絡協議会（略称：南部人権連）」主催の「人権ひろば」が開催されました。

開催テーマは、「一人ひとりが感じて、考えるところから始めよう！ ～幸せをつくるちから～」で、会長から「地域での思いやり」が基本であり、それをベースに地域での活動が生まれ、それを通じて「ありがとう」の心と言葉が生まれ、それが思いやりや感謝の心を育てていくことこそが大切で、そこに人権尊重の大切さがあると挨拶がありました。

続いて、第1部では5地区からの小中学生による人権作文が朗読されました。トップを切って、内部中学2年生の東浦さんが「人権学習をして」と題し、人種差別に対する思いを朗読してくれました。その差別がどうして生まれるのだろう、まず、言葉の壁が大きいですが、地域によってはいろいろの取り組みがなされ、外国の人たちも日本で楽しく生活の出来る社会が実現すればよいと訴えてくれました。

続いて、楠中学1年生の林さんは「ありがとう」と題し、介護を通してされる側とする側の心の交流と思いの温かさやバリアフリー社会の実現を訴え、泊山小6年生の渡辺さんは「いじめ」と題して、訴えと相談の大切さと勇気を、塩浜小の松田さんは「みんなが幸せに暮らせるように」と人々の心の持ち方を、河原田小の辻さんは「大きな力を持つ言葉」と題して、言葉の大切さと発せられた言葉の重さと力を通して、コミュニケーションが最も大切なことであるとそれぞれの思いが発表され、満場の拍手を受け、参加者から「子どもの感覚は鋭いな！！」と驚嘆と感動の声が聞こえてきました。



作文発表の様子

第2部では、人権コンサート ～幸せをつくるちから～ が開かれ、セラピストでありアルパ(ハーブ)奏者の上之山幸代さんの体験と思いを10数曲の演奏とトークで進められ、人権作文発表への感想と思いを織り交ぜながら、楽しく意義深い時を過ごすことが出来ました。

このコンサートで一番脳裏に残った言葉は、「本当のことを言わないとわからない」、「困っていても、困っている人を助けなさい」で、この2つの言葉こそ人権尊重の基盤になると思いました。

人権コンサートと内部地区文化祭の

人権啓発コーナーに掲示されていた人権ポスター



◎ 人権 一口メモ

子どもの人権

次代を担う子どもたちが健やかに成長することは、世界中の人々の願いです。しかしながら、近年、子どもたちを取り巻く家庭環境や社会環境が大きく変化しており、陰湿ないじめの増加、親による身体的虐待や心理的虐待、性的犯罪など、子どもの人権をめぐる問題が多発し、深刻な状況にあります。

子どもも大人と同じように人格を持つ一人の人間として尊重されなければなりません。このためには、私たち一人ひとりが子どもの権利について十分理解して子育てに取り組んだり、家庭や学校・地域社会との連携を図りながら、子どもの権利が最大限守られるよう行動していくことが必要です。

子どもはかけがえのない「社会の宝」です。子どもの自尊心を大切にし、一人ひとりの子どもが自分に自信をもつことができるよう、今一度、子どもたちと真剣に向き合ってみませんか。